

357) おもいで 記憶の君の香り

あの日から1年すぎて 哀しみは消えてきたけど

過ぎてゆく歳月の流れに 逆らってまだ愛してる

暮れなずむ空を上げば ひとすじの光はさして

色白の君の面影 今もなお心に浮かぶ

過ぎし日を懐かしむよに くちなしの花は香りて

おもいで 記憶の君の香りは くちなしの匂いに似てる

哀しみをこらえるように 紫陽花は色をたたえて

梅雨空は涙を流し 人はみな季節を見送る

やがて来る夏に向かって 大空に伸びてゆく花

過ぎてゆく季節とともに 土の中とじこもる花

それぞれに生命を誇り それぞれに生命を繋ぐ

この愛にすべてを賭けて いつの日かめぐり逢いたい

君だけが夢だったから 君だけが愛だったから

消えてゆく今日という日も いつまでも忘れはしない

て 掌の中に思い出集め 君の名を叫んでみても

とき 季節は逝き人は過ぎ去り すべてみな大地に還る